

## (臨床研究に関する公開情報)

公立陶生病院では、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名] 当院における抜管後非侵襲的陽圧換気装着症例に対する呼吸理学療法内容に関する検討

[当院研究責任者] 部署名 中央リハビリテーション部 氏名 平澤純

[研究の概要]

【背景】 気管挿管下での人工呼吸器管理を必要とする方の中で、痰の排出に難渋する方や元々呼吸機能の悪い方などは、気管挿管チューブを抜去（抜管）した後に呼吸状態が悪化して再び気管挿管（再挿管）を必要とするリスクが高いとされています。再挿管のリスクが高い方に対する対応として、抜管後にマスク型の人工呼吸器を装着する事や、呼吸理学療法を行う事が推奨されています。

しかし、抜管後の呼吸理学療法の具体的内容に関しては明確にされておらず、施設毎に実施率や実施内容は異なっていることが想定されます。

【目的】 この研究では、当院における抜管後にマスク型の人工呼吸器を装着された方への呼吸理学療法内容を調査します。これにより再挿管のリスクが高い方に対する呼吸理学療法の具体的内容の基礎データとする事を目的としています。

[研究の方法]

- 対象となる患者さん：2017年11月から2018年5月に当院のICUにて、手術当日に抜管された方以外で、気管挿管下での人工呼吸器管理後にマスク型の人工呼吸器管理へと移行された方。
- 研究期間：倫理委員会承認後から2019年4月まで
- 利用するカルテ情報：診断名、年齢、性別、身体所見、人工呼吸器期間、呼吸理学療法内容（呼吸機能評価、離床の程度、排痰手技）
- 検体や情報の管理：情報は当院のみで利用します

[研究組織]

この研究は、当院のみで実施されます。

[個人情報の取扱い]

収集する情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。

[問い合わせ先]

公立陶生病院

所属部署 中央リハビリテーション部 氏名 平澤純

---

電話 0561-82-5101